

[成果情報名]花首が短い赤輪ギクの新品種候補「147-0007」

[要約]新品種候補「147-0007」は花色が濃赤紫色で、輪ギクの主要品種である「花秀芳」と比べて花首が短く、花弁数が多く、L品率が高い。また年末開花作型で立枯れ・生育不良の発生が少ない。

[キーワード]赤輪ギク、花首、キク品種育成

[担当]沖縄県農業研究センター・野菜花き班

[代表連絡先]電話 098-840-8506

[分類]研究成果情報

[背景・ねらい]

沖縄県内で主に栽培されている輪ギクの赤系品種は、花首が徒長し草姿が乱れるため、わい化剤による花首伸長抑制が必要である。しかし、登録薬剤のプロヘキサジオンカルシウム塩剤（商品名：ビビフルフロアブル）は、黄色系を除く有色品種では花弁色が淡くなり、切り花品質へ影響するため、わい化剤不要な花首が短い品種を育成する。

[成果の内容・特徴]

1. 新品種候補「147-0007」は沖縄県農業研究センターとイノチオ精興園株式会社の保有系統を用いて、2013年度にイノチオ精興園内圃場（広島県）にある保有系統の混植園で自然交配により得た種子を2014～2016年度にセンター内圃場で系統選抜試験、2017年度に作型試験と現地適応性試験を実施して育成された系統である。
2. 「147-0007」の花色は濃赤紫色で、「花秀芳」と比較して花首は短く、花弁数は多い。到花日数はやや長く、切り花長はやや短い（表1）。
3. L品率は「花秀芳」と比較して高い。また、立枯れ・生育不良の発生も少ない（表2）。
4. 県内2か所、4作型で現地適応性試験を行った結果、「花秀芳」と比較して花首は短くなった（表3）。

[成果の活用面・留意点]

1. 花首長の基準は各農協の出荷基準（沖縄県花卉園芸農業協同組合：5cm以内、沖縄県農業協同組合：A品の花首は葉がガクを覆う程度とする）とした。
2. 年末開花作型は育苗期間20日、彼岸開花作型は14日で定植し、定植1週間後に摘心を行った。
3. 彼岸開花作型で商品化収量が劣る要因としては、対照品種と比較して発根性がやや劣るため、萌芽数にも若干の影響をあたえそれが収量の減少に影響していると考えられる。
4. 高温時に発根や萌芽が悪くなる場合があるため挿し芽時期や定植初期の遮光は徹底する。
5. 本新品種候補はイノチオ精興園株式会社と共同研究で育成した。
6. 沖縄県とイノチオ精興園株式会社と共同出願契約を締結後平成30年度内に品種登録申請を行う予定である。

[具体的データ]

表1 「147-0007」の到花日数及び切り花特性

作型	品種・系統名	花色	消灯時	到花	切り花長	花首長 ^x	切り花重 (調整後)	茎径 (中位)	側枝・側 蕾発生率	花蕾径	花径	花卉数 ^w (舌状花)
			草丈 (cm)									
年末 ^z (平張)	147-0007	濃赤紫	54	55	104	3.9**	89	6.1	47.8	2.9	14.1	522**
	花秀芳(対照)	赤味紫	58	54	114	5.3	72	5.8	61.6	2.3	16.8	242
彼岸 ^y (平張)	147-0007	濃赤紫	59	53	112	3.8**	88	7.1	75.3	2.8	14.0	381**
	花秀芳(対照)	赤味紫	61	48	115	4.6	65	6.3	79.0	2.2	14.3	213

z 2017年8月28日定植、定植後4時間暗期中断、9月4日摘心、11月9日消灯、再電照：12日間消灯後・7日間点灯

y 2017年11月6日定植、定植後4時間暗期中断、11月13日摘心、2018年1月3日消灯、再電照：12日間消灯後・4日間点灯

x t検定により、**は1%水準で対照品種に対して有意差あり。 w t検定により、**は1%水準で対照品種に対して有意差あり。

表2 「147-0007」の切り花収量及び特性評価

作型	品種・系統名	商品化 収量	規格 ^z 別比率				特性評価							
			L	M	S	規格外	草姿	開花 ^y 揃い	萌芽性 ^x		発根性 ^w		耐立枯性 ^v	
									(%)	(%)	(%)	(%)	親株	本圃
年末 (平張)	147-0007	3832	81	2	17	0	○	△	○	○	×	○	○	
	花秀芳(対照)	3369	69	3	12	16	△	△	○	○	○	○	×	
彼岸 (平張)	147-0007	4194	100	0	0	0	○	○	△	○	○	△	○	
	花秀芳(対照)	4469	93	3	0	4	○	○	△	○	○	○	○	

z L品：切り花長85cm・切り花重53g以上、M：80cm以上・45g以上、S：70cm以上・35g以上

y 年末 ○：7日以内 △：9日以内 ×：10日以上 彼岸 ○：5日以内 △：7日以内 ×：8日以上

x ○：2.5本以上 △：2.0本以上 ×：2.0本未満 調査時期は年末8月(親株)、10月(本圃)、彼岸11月(親株)、12月(本圃)

w ○：根鉢形成率90%以上 △：80%以上 ×：70%未満 調査時期は年末6月(親株)、9月(本圃)、彼岸10月(親株)、11月(本圃)

v 立枯れと生育不良株を含めて評価 ○：発生率が10%以内 △：20%以内 ×：20%以上 調査時期は年末6月(親株)、9月(本圃)、彼岸10月(親株)、11月(本圃)

表3 現地試験における「147-0007」の切り花特性

作型	試験地	品種・系統名	切り花長	花首長 ^t	立枯・生育 不良株率
			(cm)	(cm)	(%)
1月 ^x (平張)	名護市 ^z	147-0007	82	0.5**	0.0
		花秀芳(対照)	96	2.2	8.3
4月 ^w (露地)	八重瀬町 ^y	147-0007	110	2.9**	0.0
		花秀芳(対照)	115	5.0	0.0
12月 ^v (平張)	八重瀬町 ^y	147-0007	79	0.8	0.0
2月 ^u (露地)		147-0007	88	0.8	0.0

z 花卉園芸農業協同組合種苗センター(国頭マージ)、定植後4時間暗期中断

y 農業協同組合花き実験農場(島尻マージ)、定植後3.5時間暗期中断 対照品種なし

x 2017年9月18日定植、10月2日摘心、11月21日消灯、再電照：12日間消灯後・3日間点灯

w 2017年12月1日定植、12月15日摘心、2018年2月1日消灯、再電照：14日間消灯後・4日間点灯

v 2017年8月23日定植、9月1日摘心、10月18日消灯、再電照なし

u 2017年11月6日定植、11月16日摘心、1月10日消灯、再電照なし

t t検定により、**は1%水準で対照品種に対して有意差あり。



図1 「147-0007」開花状況
(撮影期：2月)

(沖縄県農業研究センター)

[その他]

予算区分：交付金(次世代ブランド作物特産化推進事業)

研究期間：2013～2017年度

研究担当者：田場奏美、亀山健太、座喜味利将、金城亜季、関塚史朗、玉城盛俊、渡邊武志、津田宗一郎(福岡県職員)